



International Baccalaureate®  
Baccalauréat International  
Bachillerato Internacional

# **The International Baccalaureate: Guide to University Recognition in Japan**

国際バカロレアを大学入学審査に生かす

# 1.国際バカロレアとは

## General Info

国際バカロレア (International Baccalaureate: IB) は、1968年にスイスのジュネーブで非営利団体として発足しました。当初は、国際的な移動を余儀なくされる生徒たちを対象とし、高度な大学入学前教育を実施することをめざし、インターナショナルスクールの教員たちが、革新的な考えに基づいて国際バカロレアディプロマプログラム DP を発足させました。その後、3歳から19歳の年齢層に拡大させ、DP 以外にも3つのプログラムが整備されました。設立当初は、大多数がインターナショナルスクールでの実施であり、例外的にインターナショナルスクール以外の現地の学校での実践が見られるにとどまっていた。現在では、半数以上が、インターナショナルスクール以外の現地校での実施となっています。

より良い世界の実現のため高度な教育の実践を企図した IB 創立者たちの理想と理念は、IB のミッションステートメントに凝縮され、それを原点として、IB はさらなる進展を遂げようとしています。具体的に国際的な視点に立つその理念や原則を実践に移す手だてとして、IB 学習者像が掲げられています。

こうして IB は、国際的な視点に立ちこれからの世界で生起しうる課題に対応できる若者の育成に取り組んできたといえます。近年では、グローバル社会の到来に伴い、カリキュラム改革の指標の模索と大学入学資格審査の国際基準の確立の必要性が求められ、IB がその内容の高度さと豊富さゆえに高い評価を得、世界的に急激に普及しています。現在 2,375 校で DP を実施し 1,800 以上の大学で IB を認知した入学審査システムを採用しています。

IB が各国の政府との協力を推進する中、文部科学省は、過去 30 年余りにわたって IB に拠出金を提供し、近年では特にグローバル人材育成推進事業の一環で、IB に注目し『課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力等重要能力・スキルの確実な修得に資するもの』(文部科学省サイトより)という評価をしています。

大学入学審査基準として、IB ディプロマプログラム履修生に対して、IB を活用しての明確な指針を提示することによって、大学として見識があることをアピールする機会をえることになります。また、各大学が、個別の IB 型入学審査要項を作成する際、IB はその要項作成の指針を提示することができます。

このガイドは、国際バカロレアを大学入学審査に生かすための指針の一助としていただくために作成いたしました。また、実際の入試要項作成に関して情報とガイダンスに IB は力添えを惜しみません。

## 2.国際バカロレアのミッションステートメント

### IB Mission Statement

#### IBの理念

国際バカロレア (IB) は、多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現のために貢献する、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校、政府、そして国際機関と協力しながら、高度な国際教育プログラム及び厳格な評価を開発しています。IBのプログラムは、世界中の児童・生徒に対し、他の人たちをその違いと共に理解し、自分と異なる人々にもそれぞれに理があり得ることが分かる、行動的で、共感する心を持つ生涯学習者となるよう働きかけています。(FPIP p8)

このように、IBのミッションステートメントは、国際教育の本質に関する深遠な原理を明確化し、すべてのIBプログラムを推進する基盤としています。また、具体的にIB校で学ぶ全ての子どもたちが、こうした指針のもと学習者としてどのように成長しているのかを表すのが学習者像という形で提示しています。

## 3.学習者像

### IB Learner Profile



IB 学習者像は、IB ミッション・ステートメント(理念)の IB 生の学習実践の具体的な表れとして提示されています。学習者像は、長期的な展望や教育の共通目標を提示しており、学校や教員が活動する際の指針であり、動機付け、原動力となります。

IB Learner Profile	IB の学習者像
<b>Inquirers</b> They develop their natural curiosity. They acquire the skills necessary to conduct inquiry and research and show independence in learning. They actively enjoy learning and this love of learning will be sustained throughout their lives.	<b>探究する人</b> 生来の好奇心を育みます。調査と研究を行うために必要なスキルを獲得し、自主性を発揮しつつ学習します。主体的な学びを楽しみ、この学びの喜びを生涯通して持ち続けます。
<b>Knowledgeable</b> They explore concepts, ideas and issues that have local and global significance. In so doing, they acquire in-depth knowledge and develop understanding across a broad and balanced range of disciplines.	<b>知識のある人</b> 地域、そして世界的に重要な概念、考え、問題を探究します。そうする中で、特定の学問分野に偏らず幅広く、バランスのとれた深い知識を身につけ、その理解を育みます。

<p><b>Thinkers</b></p> <p>They exercise initiative in applying thinking skills critically and creatively to recognize and approach complex problems, and make reasoned, ethical decisions.</p>	<p><b>考える人</b></p> <p>複雑な問題を認識し、それに取り組み、筋の通った倫理的な決定を行うために、批判的かつ創造的に考えるスキルを積極的に応用します。</p>
<p><b>Communicators</b></p> <p>They understand and express ideas and information confidently and creatively in more than one language and in a variety of modes of communication. They work effectively and willingly in collaboration with others.</p>	<p><b>コミュニケーションができる人</b></p> <p>複数の言語、多様なコミュニケーションの方法を用いて、考えと情報を自信を持って創造的に理解し表現します。まわりの人と積極的かつ効果的に共同作業を行います。</p>
<p><b>Principled</b></p> <p>They act with integrity and honesty, with a strong sense of fairness, justice and respect for the dignity of the individual, groups and communities. They take responsibility for their own actions and the consequences that accompany them.</p>	<p><b>信念を持つ人</b></p> <p>正直さと誠意を持って、公正と公平、そして個人、集団、及び共同体の尊厳に対する尊敬の念を強く持って行動します。自分自身の行動と、その行動に伴う結果に対して責任を負います。</p>
<p><b>Open-minded</b></p> <p>They understand and appreciate their own cultures and personal histories, and are open to the perspectives, values and traditions of other individuals and communities. They are accustomed to seeking and evaluating a range of points of view, and are willing to grow from the experience.</p>	<p><b>心を開く人</b></p> <p>自己の文化と経歴を理解し、大切にすると同時に、まわりの個人と共同体の視点、価値観、伝統に対して心を開きます。常に多様な視点を探して評価し、その経験を糧に成長しようと努力します。</p>
<p><b>Caring</b></p> <p>They show empathy, compassion and respect towards the needs and feelings of others. They have a personal commitment to service, and act to make a positive difference to the lives of others and to the environment.</p>	<p><b>思いやりのある人</b></p> <p>他の人たちが必要としていること、感じていることに対して思いやり、共感、そして尊重する気持ちを示します。他の人たちの生活と環境に良い影響を及ぼすために奉仕し、行動することを自分の責任とします。</p>
<p><b>Risk-takers</b></p> <p>They approach unfamiliar situations and uncertainty with courage and forethought, and have the independence of spirit to explore new roles, ideas and strategies. They are brave and articulate in defending their beliefs.</p>	<p><b>挑戦する人</b></p> <p>未知の状況や不確実な事態に対し、熟慮しつつ勇気を持って取り組み、新しい役割、考え、戦略を探る自立した精神を持ちます。自分の信念を守るために恐れることなく、明確な態度を示します。</p>
<p><b>Balanced</b></p> <p>They understand the importance of intellectual, physical and emotional balance to achieve personal well-being for themselves and others.</p>	<p><b>バランスのとれた人</b></p> <p>自己及び他者の幸福を達成するために、知性、身体、心のバランスをとることが重要であると理解します。</p>
<p><b>Reflective</b></p> <p>They give thoughtful consideration to their own learning and experience. They are able to assess and understand their strengths and limitations in order to support their learning and personal development.</p>	<p><b>振り返りができる人</b></p> <p>自己の学習と経験を深い洞察力をもって熟考します。個人の学習と成長を促すため、自分の長所と短所を評価し、理解することができます。</p>

## 4. 国際バカロレアカリキュラム

### IB Curriculum

国際バカロレア (IB) は次の4種類のプログラムを提供しています。

- ・ **初等教育プログラム (PYP)**: 3–12歳の児童対象。学校の内外で子どもを全人的に育てます。1997年開始。
- ・ **中等教育プログラム (MYP)**: 11–16歳の生徒対象。5年間のプログラム、1994年開始。従来の各教科内容を包括的に捉え直して再編成し高度な学習内容と生きる力 (スキル) を養成します。
- ・ **ディプロマ資格プログラム (DP)**: 16–19歳の生徒対象の2年の高度なプログラムで、国際的に認められた大学入学前の教育課程。1960年代末開始。
- ・ **IBキャリア関連教育サーティフィケート (IBCC)**: 2012年新設の16–19歳の生徒対象2年間のプログラムで、DPクラス履修の一方でキャリア関連学習を進めていく内容になっている。

各プログラムとも、各年齢層に適したカリキュラム、教育哲学、評価、教員研修、IB校認可・認可更新システムが整備されています。143カ国の3,476校で、こうしたIBのプログラムが実践されています。

## 5. DP カリキュラム

### DP Curriculum

#### I. 理念 (Principles)

MYP に続いて提供されるディプロマプログラム (DP) は、世界中の主要な大学への入学準備を進めるのに役立つだけでなく、思いやりを持ち、分析的に考えることができる生徒、そして、生涯を通して学習に励み、責任感ある良き社会の一員となることを促します。意欲的な生徒が、教科書に基づく学習に限定することなく、実践的な応用を取り入れた質の高い、且つ、グローバルな視点に基づくプログラムに挑戦することができますよう構成されています。

#### II. カリキュラム概要 (Curriculum Overview)

DP カリキュラムは、円形モデルによって表現されます。学習者像、つまり、プログラムが後押ししたり、発展させたりすることを目指す生徒の特色を中心に据えています。この学習者像の周囲を、教科間のつながりや、学校とより大きなコミュニティとのつながりを作るきっかけをカリキュラムに与えるような3つの中心的要素: 知の理論 (TOK)、課題論文 (EE)、創造性・活



動・奉仕(CAS)が取り囲んでいます。そして、カリキュラムモデルの端に、生徒が履修する6つの教科群が存在します。

DPを通して、生徒は:

1. 6つの教科群それぞれから1科目選択し、3科目を標準レベル、3科目を高度レベルで履修します。
2. 課題論文(EE)を完成させます。
3. 知の理論(TOK)を履修し、TOK エッセイを完成させ、発表します。
4. 150時間以上の自発的なCAS活動に参加します。  
学校内外の様々な活動を通して、学習者像の各側面で成長
5. 2年間のDP履修要件を充足させます。内部評価と最終のDP試験を受け総合的に評価され、最終のDPスコアをIBから受け取ります。

### 1. 6つの教科群

グループ1から6の各教科群が設定されており、各教科群で1教科ずつ選択します。その際、それぞれの教科を高度レベルか標準レベルで履修するかの選択も同時にします。全体では、通常3教科を高度レベル、3教科を標準レベルで選択します。

グループ	科目例
1.言語と文学	言語A: 文学、言語A: 言語と文学、文学と演劇
2.言語習得	言語B、初級語学
3.個人と社会	ビジネス、経済、地理、歴史、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、心理学、社会と文化人類学、宗教、グローバル政治
4.実験科学	生物、化学、デザインテクノロジー、物理、環境システム
5.数学とコンピューター科学	数学スタディーズ、数学SL、数学HL、コンピューター科学
6.芸術又は選択科目	音楽、美術、ダンス、フィルム、演劇、 あるいは、グループ1～5の教科から選んで追加で1教科選択する

IBは、科目内容を5年ごとに更新しています。2011年9月より上記の科目設定に変更されています。特にグループ1と2に大きな変更がありましたので、ご注意ください。

### カリキュラムモデルの中核 (2)～(5)

これらのカリキュラム要素はDPの枠組みの中心に、位置しており、生徒の学習経験に不可欠とされています。これらは、各生徒が「積極的で、見識と思いやりを持ち、多文化社会と多言語社会の良き形成者」となるよう手助けする機会を提供しています。

## 2) 課題論文(Extended Essay)

課題論文は、必須の独創的リサーチ作品であり、IB が評価します。6 つの教科群内で、生徒が関心を持ったトピックについて研究し、独自にまとめます。エッセイは、英語で 4,000 ワード程度(日本語の場合 8,000 字)となります。海外の大学において求められる独自のリサーチ技能やライティング技能を生徒に紹介することを目的としています。エッセイの作成には 10 か月以上かかり、一般的なアドバイスや生徒作品をモニターしていく指導教員の指導のもと取り組みます。

## 3) 知の理論:TOK(Theory of Knowledge)

TOK は、生徒が分析的に考えることができるよう、そして、世界に対する認識や理解に影響を与えるような思い込みや偏見をより認識することができるよう手助けをする学際的なコースです。生徒は、論理的な議論に基づき考えを表現し、他の文化的観点を受け入れることを学びます。

TOK について学び、TOK 概念を議論する授業がカリキュラムに組み込む一方で、TOK の各側面は、他の教科すべてにおいて応用、強調します。DP 最終学年において、生徒は、IB によって評価される必須の TOK エッセイを書き上げ、発表します。

## 4) 創造性・活動・奉仕:CAS (Creativity, Action and Service)

CAS を通して生徒は、創造的な活動、体の鍛錬、コミュニティに奉仕することを含む活動に従事します。すべての生徒は、目安として 150 時間以上の CAS 活動を実施し、以下の 8 つの学習成果をどの程度達成したかを記録します。

1. **自己認識**—自らの強みや成長した分野に対する認識を高めたか。
2. **新しい挑戦**—新しい挑戦に取り組んだか。
3. **計画**—計画し、そして、活動を立ち上げたか。
4. **協調**—他者と協調的に作業できたか。
5. **献身**—自分の活動において忍耐力や献身を示したか。
6. **グローバル**—グローバルな観点から重要な課題に取り組んだか。
7. **倫理**—自らの活動の倫理的意義を考慮したか。
8. **新しい技能**—新しい技能を発達させたか。

プログラムを履修してきた多くの生徒が、CAS 活動を良い思い出としてあげており、大学入学の願書においてリーダーとしての成長や将来の方向性を例として述べています。

## 6.ディプロマ取得要件

### DP requirements

#### ディプロマ取得要件 (Requirements for a Diploma)

ディプロマを取得するための要件のまとめを下記に記します。

合計 24 点以上
+
創造性・活動・奉仕 (CAS) の修了
+
課題論文と知の理論 (TOK) の両方において D 以上の評価 (合計点が 28 点より少ない場合)
+
高度レベル (HL) 教科の合計点が 12 点以上
+
高度レベル (HL) 教科において、2 以下の点数を取得していない。(合計点が 28 点より少ない場合)
+
標準レベル (SL) 教科において、2 点が 1 つ以上ない。
=
ID ディプロマの習得

取得要件は、生徒が 27 点以上獲得した場合、高度レベル (HL) を 3 教科履修したか、あるいは、4 科目履修したかによりわずかに異なってきます。



## 7. 文部科学省の取り組み

### MEXT and IB

1979年に文部省(当時)は、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したものを、大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として指定しています。また、1979年から毎年、IBに資金を拠出しています。

2012年6月4日にグローバル人材育成推進会議審議のまとめとして、「高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校程度へ増加させる」<sup>1</sup>ことが公表され、国際バカロレアの普及に向けた動きが活発化しています。

こうした日本政府としてのグローバル人材育成の動きに連動して、日本の大学のグローバル対応のシステム構築をめざす動きを文部科学省の高等教育局が支援しています。これは、「グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進」(文部科学省 グローバル人材育成推進事業)の一環として実施されています。これは、海外からの留学生が日本で学びやすくし、日本から海外へ留学しやすくする環境整備にも関連します。国内大学がグローバルスタンダードで柔軟な入学審査システムの確立が期待されています。

## 8. IB の入学審査への活用

### How is the IB diploma recognized by universities?

国際バカロレアを活用した大学入学審査システムを確立している大学について、その活用方法は、多岐にわたりますが、共通していることが一つあります。それは、その要項のなかで、明確に、ディプロマプログラムの履修生を評価し、ディプロマプログラム自体についてその内容が高度であることを認めていることです。DPの活用されかたとしては、下記の方面になります。

**Recruitment**—積極的なDP履修生の受け入れ。

**Admission**—入学審査でIBディプロマを認め、入学審査の文書や入学関連広報でそれを明記します。

**Placement**—IBコースの内容を充分理解し、一般入試の内容とレベルを鑑みて、それに相当する入学要件をIB科目とスコアで提示します。また、IB生の英語運用能力を評価します。

**Credit**—最終DPスコアに基づいて、DP履修内容を大学の単位として認めます。具体的に、どの科目(標準レベルか高度レベルかを指定)を、大学のどの単位の何単位として認めるかを明示します。知の理論(ToK)、自由課題論文(Extended Essay)、創造・活動・奉仕(CAS)も大学の相当単位としてどのように認めるか明示します。

**Scholarships**—IB生を対象とする給付奨学金を設定します。

---

1. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/fieldfile/2012/09/14/1325261\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2012/09/14/1325261_1.pdf)

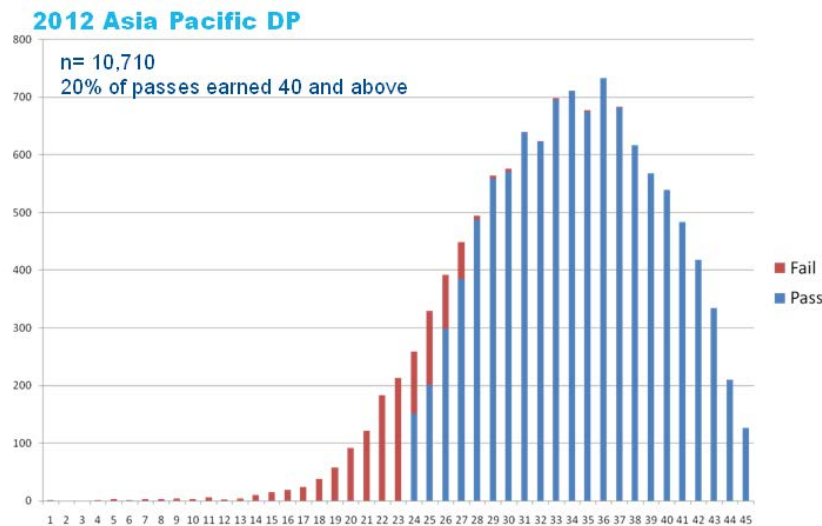
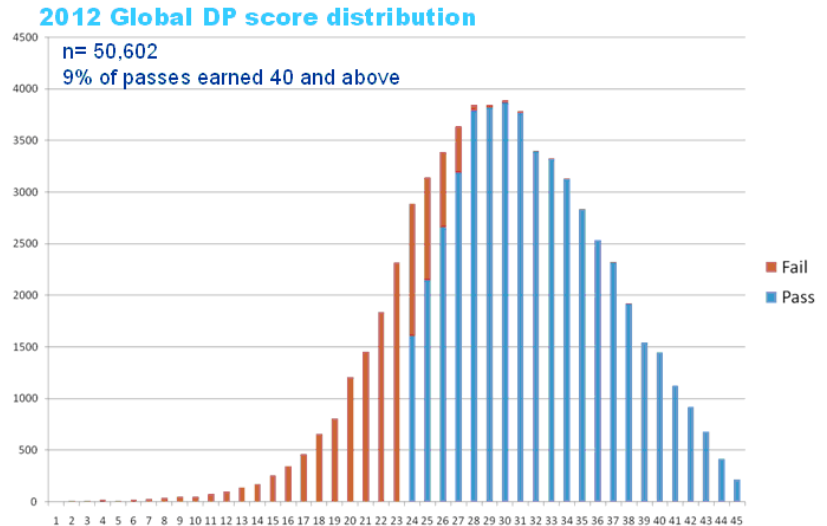
## 9. DPスコアと大学進学

### How is the IB diploma recognized outside of Japan?

海外では、積極的にIBディプロマを大学入学審査に活用しています。十分なIB教育の理解に基づき、大学入学後に、出願のIB生がどの程度の活躍をするのかをIBスコアから予測することができます。また、大学がIBのスコア設定をすることで、大学がIBに理解を示していることをアピールすると同時に、IB生の出願を促す効果もあります。

一般的のIBスコアの取得者分布と大学合格状況の相関グラフを示します。

赤で表示された部分は、フルDPが取得できなかった者で、青の部分がフルDP取得者です。上位3%が満点の45点～42点を取り、上位15%が39点以上で世界の超難関大学に合格します。上位28%が36点以上で難関大学に合格し、給付奨学金を授与され、さらに、高度レベルの科目で5, 6, 7点をとっている場合には大学2年進級相当の単位認定を受けます。DP生の世界的な平均点がほぼ30点で、フルDPを取得するためには他の要件とかねかわせて、24点以上取る必要があります、多くの大学に進学していくことができます。



## 10. 国際バカロレア型大学入学審査要項作成指針

### Developing IB recognition Policy JPN

<IB 方針に含まれる要素>	<表現例>
<p><b>I. Admission Statement</b> IB 型入学選考方針</p>	<p>IB入試で求める学生像</p>
<p>大学が、IB 資格が何を意味するかを理解し、IB 生が大学にもたらすものに期待評価していることを出願者に伝えます。</p>	<p>本学は、国際バカロレア教育で実践されている高度な学術内容、分析的思考、異文化理解と異文化の尊重を評価し、IB 取得生を積極的に受け入れ、更に高度な学術的探求と多方面にわたるリーダーシップの発揮を期待します。</p>
<p><b>II. Admission Overview</b> 出願概略</p>	<p>出願注意点</p>
<p>出願ルールの提示します。</p>	<p>複数学科出願、複数時期出願、併願・専願の別などに関する情報を提示します。</p>
<p><b>III. Programs・Number of students</b> 募集学部・人員</p>	<p>募集学部・人員</p>
<p>バカロレア型審査での募集学部・募集人数・出願期間・合格発表・入学手続きの提示します。</p>	<p>出願時期・審査日(面接など)をバカロレア世界試験日やIB結果発表日、海外大学などの出願・結果通知時期を考慮して設定します。</p>
<p><b>IV. Admission Requirements</b> 出願要件</p>	<p>〇〇大学 IB 型入学審査要件</p>
<p><b>入学審査要件の決定</b></p>	
<p>IB ディプロマのスコアは、学生が大学においてどのように活躍できるかを予測する指数として用いられます。一部の大学では、IB 生の大学1年目の成績を調査したり、他の大学でのIB要件設定を参考にしたりしてIB生に対する入学審査要件と適切なスコアを設定しています。</p>	
<p>大学が最新のIB要件情報を明確に提示することは、IB 生が出願するかどうかを決定する際の指針となります。</p>	
<p>a) <u>Entry Qualification 出願資格</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正規の教育制度に基づく教育機関で高等学校卒業証明書を取得した者。</li> </ul>	<p>a) <u>Entry Qualification 出願資格</u></p> <p>正規の教育制度に基づく教育機関で高等学校卒業証明書を取得あるいは、国際バカロレアのフルディプロマを取得しているか、取得見込みであること。</p>

---

## b) Entry requirements 出願要件

### 日本語／英語の能力

- IB カリキュラムの特徴的な要素は、生徒に 2 つの言語を学ぶことを求めていることです。日本語／英語を母国語としない生徒は、高度レベルや標準レベルの DP 日本語／英語試験におけるそのスコアで裏付けされた高度な日本語／英語力を示すことができます。

### 学部指定の履修教科

- 各学部が定める必須 IB 教科履修科目を履修することができます。
- 学部ごとの最低 IB スコア要件を設定する場合もあります。

## c) Use of predicted grades 見込み点

- 各 IB 校が DP の見込み点 (predicted grades) として、IB に提出する点数を、入学審査の材料として審査し、その結果を最終結果とすることができます。
- あるいは、条件付合格を出して、IBスコアが発表されたところで、最終合格とすることもできます。

## b) Entry requirements 出願要件

### 日本語／英語の能力

- 本学の授業言語は、日本語／英語であるため、日本語／英語を高度(標準)レベルで履修し何点以上を取得していること。この要件を満たした生徒は、IELTS や TOEFL など他の試験結果の提出の必要はありません。(また、日本語の能力に関しても、同様に日本語検定やEJU(日本留学試験)の結果通知の必要はありません。)

### 学部指定の履修教科

- 例:工学部では、Math, Physics を履修していること。
- 例:総合スコアで○点、各科目スコアで○点を設定します。

## c) Use of predicted grades 見込み点

- IB フルディプロマを[入学審査要件となるディプロマスコア何点]以上を取得とする見込み点がDPコーディネーターから提出された生徒は、本大学への入学を保証します。
- あるいは、見込み点で条件付合格とし、最終IBスコアのIBからの通知を持って最終合格と認めます。

---

## V. Application Packet

### 審査方法

出願に必要な書類など

DP結果は、DP試験も加味しての全コース内容の総合評価であり、入学審査にDPスコア以外の学科試験は課すことにそれほどの意味はありません。

必要に応じて、自己アピール文、教員による人物評価書、論文サンプル／作品サンプル(芸術系学部などの必要に応じて)、また、面接試験を設定する場合もあります。

出願書類例

- 志願書
- 検定料
- 高校成績証明書
- IB成績証明書(見込み・最終)
- パーソナル・エッセイ
- 人物評価書
- 作品

---

## VI. Alternative pathways

### 代替的な審査

入学審査要件とされている IB ディプロマスコアに到達しない生徒、あるいは、フルディプロマを取得しない IB 生に対して、個々の教科成績を用いて入学審査をしたり、他の追加的な資格と組み合わせることで IB 成績を提示させたりすることによって、代替的審査方法を提示することができます。

すべての IB 生は、本大学に出願することができます。IB フルディプロマや IB 各教科の成績や高校調査書、活動報告書などを、入学選考の可否決定に用います。

---

## VII. Admission Process

### 出願手続き

#### 出願手続き

審査時期と締め切り日の明記

検定料の支払い方法

出願受付の通知方法

- 国外からの出願も考慮に入れます。
- 郵送の場合、必着か消印有効か
- 検定料は振り込み、インターネットバンキング、クレジットカード払い

オンライン出願ならば、アカウント番号の設定と出願受理の通知

---

## VIII. Scholarship 特別な配慮

### 給付奨学金

世界中の高等教育機関は、様々な分野において優れた業績を示している生徒に対して奨学金を授与しています。IB 生に対して奨学金を授与することは、大学での教育に意欲的に取り組み、大学生活への移行に対応できる高い力量を備えた生徒に対して、魅力的な強い誘因を与えることになります。

本大学は、国内、あるいは、海外からの学生を対象として多彩な給付奨学金を提供しています。詳しい情報は、本大学ホームページを参照してください。

---

## IX. Credit award 大学単位の認定や飛び級

#### 単位認定

### 単位

世界的に各国の大学は、IB 生が学術的に秀でていることを認識しており、IB ディプロマや、個々の IB 教科結果に対して大学での単位を授与しています。

本大学では、IB における成績に応じて、大学卒業に必要な単位数として数えることができるような、または、一般教養科目の一部としての単位を授与しています。

本大学は、IB ディプロマの取得に対して最高[何単位]まで授与します。IB 修了証を取得した生徒は、標準レベル、あるいは、高度レベル科目で[最低限何点]以上のスコアに対して、単位を授与します。

---

### コア要素要件

6つの教科群における学習に加えて、IB ディプロマプログラムは、その中核に 4,000 語の課題論文 (EE)、創造性・活動・奉仕 (CAS) による経験に基づく学習、知の理論 (TOK) などのコア要素を含んでいます。

ディプロマプログラムのこのコア要素を重視し、一般に行われている教科の単位認定に加えて大学の選択科目の単位としても単位を認定している場合もあります。

IB フルディプロマを取得した生徒は、IB ディプロマの中心的要素である創造性・活動・奉仕 (CAS)、課題論文 (EE)、知の理論 (TOK) を修了したことに対して、[何単位] を本大学の選択科目単位として認めます。

### X. Additional Information 追加的情報

---

#### IB 成績表の提出

大学での単位認定には、国際バカロレアからの公式成績表の提出が必要となります。

#### 問い合わせ

問い合わせ先:

大学名

入試課

担当者名

電話

Eメール

---

# 11. 留意点

## Notes

### 1) What is Full Diploma? IBフルディプロマとは？

IBフルディプロマは、「国際的に認められている大学入学資格」で「大学入学に関し高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認められる者として指定され」ています。(1979年文部省告示)IBフルディプロマには、2面的な意義があり、1つは大学出願のための資格という側面と、いまひとつは学力レベルを示す成績証明という側面です。また、IBフルディプロマの内容は、高校卒業相当程度に加えて、(4年制)大学の初年度分の内容まで到達しているという理解が世界的には、一般的です。オーストラリア、イギリスでは大学は3年課程が主流で、学部レベルの入学をするための基礎資格として、(日本の)大学1年次以上の修了が期待されています。また、北米の4年制大学では、大学初年度の単位として、IB科目を単位認定しています。

### 2) Standard / Higher Level 標準レベルと高度レベル教科

IBカリキュラム内容と個々の教科内容を理解することによって、各大学におけるコース内容に合致するIBディプロマプログラム要件を設定することができ、その際標準レベルや高度レベル教科のうちどちらでの設定をするのか見定める必要があります。

### 3) Alternative Pathway IBを補完する方法

IB以外に高等学校卒業証明などの大学入学資格がほかに担保できる場合で、フルディプロマが取得できていない場合、あるいは、IBの教科目を選択取得している場合、科目ごとの点数を入学審査材料として考慮します。また、高等学校成績証明書の内容とバカロレア点数の両方をその他の人物評価も加味して総合的に審査します。

### 4) Language Proficiency 言語運用能力

English / Japanese Proficiency 英語/日本語 運用能力

大学の授業言語が英語である場合は、英語能力を証明するための審査材料が必要であり、それをIBの英語科目でのスコアで判断できます。また、下記の英語科目での成績レベルを満たしている場合には、TOEFLスコアやIELTSスコアの提出は求めない場合が多くみられます。

例:

English A HL:3

English A SL:4

English B:HL 4

English B SL:5

大学の授業言語が日本語である場合には、日本語能力を証明するための審査材料が必要となります。日本語検定試験の結果や、留学生試験EJUの日本語テストに替えて、IBの日本語科目のスコアで判断することができます。その際、日本語科目で下記の成績レベルを満たしている場合には、その点数設定をもって、外部日本語試験に代替することも考えられます。

例:

Japanese A HL4

Japanese A SL:5

Japanese B:HL 6

Japanese B SL:7

## 5) Predicated grades 見込み点の利用

入学審査の重要な資料の1つとして、IB成績があります。出願時点で、最終のIB成績が提出可能であれば、問題はありません。どのような出願パターンにしても、学生がギャップイヤーをとる場合以外は、どうしても、出願時点で、最終のIB成績が出ていることは大体の場合において望むことはできません。(下記表参照)そこで、大学は、IB生が通う学校のディプロマプログラム(DP)コーディネーターが取りまとめて提出するIBディプロマ見込み点を出願資料として活用することになります。

見込み点とその他の資料を総合して、最終合否を決める大学と、見込み点で条件付合格を出して、最終結果を待って正式な合格とする場合があります。その際、カナダのUBCが見込み点の活用について、大学入学後の学生の成績の追跡調査をしていますので、参考にしてください。

### 見込み点(predicted grades)利用の必要性

大学入学時期	DP 試験	DP 結果	出願時期	出願時の成績	合否	高卒後入学までのギャップ
2月(豪)	5月	7月初旬	9~11月	最終DP成績	最終合否	a.半年
	11月	1月初旬	9~11月	DP見込み点	最終合否/ 条件付	b.ギャップなし
	11月	1月初旬	翌年 9~11月	最終DP成績	最終合否	c.1年(日本1条校から 出願の生徒)
4月 (日本)	5月	7月初旬	8~10月	最終DP成績	最終合否	d.半年
	11月	1月初旬	8~10月	DP見込み点	最終合否/ 条件付	e.ギャップなし
7月(豪)	5月	7月初旬	4~5月	DP見込み点	最終合否/ 条件付	f.ギャップなし
	11月	1月初旬	4~5月	最終DP成績	最終合否	g.3ヶ月
9月(英米)	5月	7月初旬	12~3月	DP見込み点	最終合否/ 条件付	h.ギャップなし
	11月	1月初旬		最終DP成績	最終合否	i.半年

高校卒業後大学入学までに、時期的なギャップがないのは、上記の表では b,e,f,h のパターンで、それぞれ、b.オーストラリアの高校を卒業してオーストラリアの大学に進学する場合、e.日本の高校を卒業して日本の大学へ進学する場合、f.英米系高校を卒業してオーストラリアの大学へ進学する場合、h.英米系高校を卒業して英米大学へ進学する場合



合となる。その他は、高校が秋入学で大学が春入学の場合や、高校が春入学で大学が秋入学の場合となり、時期的なギャップがあるために、出願時期には、最終IB成績が整っている。

## 6) Multiple Entry points (Exam in May and November) 複数入学時期

DP試験は5月の北半球試験と11月の南半球試験が設定されています。大学は、年に複数回の入学時期を設定し、日本を含む多様な学校スケジュールの卒業生の出願に対応できると良いでしょう。IBの取得地や国籍に関わらず優秀な学生を年に複数回の入学時期に受け入れていくことが理想的といえます。

## 13.用語

用語	解説
IB	International Baccalaureate の略。国際バカロレア機構、IBカリキュラム、DP、DP Full Diploma をさす場合がある。
DP	Diploma Programme の略、DPカリキュラム、DP Full Diploma をさす場合がある。
Full IB Diploma	文部科学省は「バカロレア資格」として表記。“The Diploma of the International Baccalaureate”が正式名称で、ディプロマ取得者には、“Diploma Course Results”が提示される。
Certificate	この表現は2011年8月廃止。各科目で4点以上のスコアが出た場合、個別に Certificate 授与となっていた。2011年9月から、IBコース生の成績一覧である“Diploma Course Results”として提示される。
Bilingual Diploma	2011年9月より:以下のいずれかを満たした場合バイリンガルディプロマが授与される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● Group 1を2つの言語で履修し、最終スコアがそれぞれ3以上である。</li> <li>● Group 3か4の教科を Group 1の言語以外の言語で履修し、最終スコアが3以上である。</li> </ul>
Group 1	Language A1(第1言語)という表現は2011年8月で廃止。 2011年9月より “studies in language and literature”(言語と文学)科目名は、Language A: literature / Language A: language and literature / Literature and performance
Group 2	「第2言語」という名称は、2011年8月で廃止。 科目として、Language A2は廃止。 2011年9月より: “language acquisition”(言語習得) 科目名としては、Language ab initio, Language B, Latin or Classical Greekがある。
Predicted grades	DPコーディネーターがIBにDP生のDP見込み点を報告する。そのときの点数を Predicted grades (見込み点)としている。11月試験では10月

	10日 5月試験では、4月10日が報告締め切り。
Anticipated grades	Predicted grades (見込み点)以外で、その時点でのDPの最新の予想点としてまとめた点数。DPコーディネーターが取りまとめ、大学進学資料として進路指導担当者が大学に出願成績として提出する場合があります。
SAT	アメリカ CollegeBoard 社の実施するテスト。アメリカの大学は、共通テストの点数としてSATの提出を要求する場合があります。
GCE A Level	イギリス拠点の2～3年の大学進学前の教育課程
TOEFL iBT	アメリカ CollegeBoard 社が、英語を第1言語とせず、米国大学(大学院)への進学を希望する者を対象として実施する英語テスト。
IELTS	英語を第1言語とせず、イギリスや英連邦の大学(大学院)への進学を希望する者を対象として実施する英国拠点の英語テスト。
大学入学資格	1979年文部省告示では「国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したものを、大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められるとして指定。

今後予想される日本でのIB校の増加とIB情報更新に伴い、定期的に本冊子の内容更新をいたします。

連絡先:

〒410-0011 静岡県沼津市岡宮 1361-1

電話:055-924-3322

アジア太平洋地域 日本事務局

大学リエゾン

ウェンドフェルト延子

nobuko.wendfeldt@ibo.org

Web:[www.ibo.org](http://www.ibo.org)

Nobuko Wendfeldt,

University Liaison Officer for Japan

1361-1 Okanomiya Numazu, Japan, 410-011

Tel: +81 559 24 3322 Fax: +81 559 24 3352 | Web:[www.ibo.org](http://www.ibo.org)

